

令和6年度 さいたま市タウンミーティング【桜区】



日時 令和6年9月14日(土) 14:00～15:30
会場 桜区役所
参加者 15名(傍聴者1名)
開催テーマ 子ども・子育てに優しい社会にするために、みんなのできることは？

意見分類の表示について

◎テーマ説明資料上の表記

【子ども・若者に求めた意見】

- 1 大人に伝えたいこと、今気になっていること、
もっとこうだったらいいのと思うこと
- 2 子どもたちのために使えるお金があるとしたら
どんなことに使ってほしい？
- 3 みんなの好きな居場所、ほっとできる居場所ってどんなところ？

【大人に求めた意見】

- 4 子ども・若者の意見をどう受け止めるか
- 5 子育てをするうえで困っていること
- 6 ○○のところを配慮してもらえるとありがたい
- 7 どのようなことができるか
- 8 子育て中にあたたかい気持ちになった瞬間は？
- 9 子育てに優しい社会に向けて、自分が取り組んでいること

◎開催概要での表記

- 1 [子ども・若者]大人に伝えたいこと、もっとこうだったらよいのと思うこと
- 2 [子ども・若者]子どもたちのために使えるお金があったら
- 3 [子ども・若者]好きな居場所、ほっとできる居場所
- 4 }
5 } 子育てに優しい社会に向けて
6 }
7 }
8 } 自分が取り組んでいること、取り組めること、感想等
9 }
10 その他子育てに関すること
11 テーマ外の意見

※発言順ではありません。

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
[子ども・若者] 大人に伝えたこと、もっとこうだったらよいのと思うこと	お金や性の教育を受けられる機会があるとよい	<p>高校生の視点から、お金と性の教育をもっと受けたかったと感じています。</p> <p>お金の教育については、貧困や生活保護の問題がある中で、幼少期からお金に関する知識を得ることが重要です。これにより、出身環境に関係なく、社会での選択肢が広がると思います。</p> <p>性の教育に関しては、少子高齢化が進む中で、避妊だけでなく、ライフプランや不妊についても知識が必要です。これらの情報があれば、子どもを持つことに対する不安が軽減されると考えています。</p> <p>お金と性の教育は、大人があまり良いイメージを持っていないため、子どもから質問しづらい環境があります。このようなタブー視される内容について、学校や団体でしっかり学べる環境があればいいと思います。</p>	<p>教育において、タブー視されている部分が多いと感じています。最近では、法人会や銀行などの協力を得て、お金に関する学びの機会を増やしています。また、助産師会の協力を得て、性についての話をする機会も設けました。</p> <p>性の知識は避妊だけでなく、ライフプランを考えることも重要だというのは、本当にそうだと思います。若い頃に子どもを産むとハードルが沢山あることもあると思います。このような現状を踏まえ、自ら考える機会を提供する教育が大切だと思います。</p>		提案を反映した
	若いうちに妊娠に関する知識を得られるとよい	<p>晩婚化が進むことで、第2子や第3子が生まれにくくなり、少子化の問題に影響していると思います。背景には、若い妊娠に対する悪いイメージがあります。若いから育児ができない、かわいそうという考えは良くないと思います。</p> <p>知識不足が問題なのであり、妊娠自体が問題ではありません。小学校や中学校など、若いうちから妊娠や出産、育児について学ぶ機会を増やすことが重要だと考えます。</p>	<p>若いうちに妊娠や結婚をすることは、マイナスのイメージで捉えられがちです。特に女性は将来の夢や働く上での考えを持っているため、妊娠や家庭を持つことが障害になると感じる人が多いと思います。</p> <p>知識がないのはよくありません。完璧ではないと思いますが、行政のサポートのための施策は存在しますので、知っていただきながら、結婚や子どもを持つタイミング、そして家族と共に自分の夢や目標を実現する方法を、若いうちから考えることが重要だと感じています。</p>	<p>妊娠や出産に関わる内容や、ライフデザインについては、主に高等学校の家庭科でも学習することになっています。小・中学校では、直接的な内容はありますが、高等学校への学びがつながるように計画されています。具体的には、小学校では、家族の一員として、家庭の仕事に協力するなど、家庭生活を大切にすることを育むための学習活動を行ったり、中学校では、「赤ちゃん・幼児触れ合い体験」を通して、幼児の発達や生活、それを支える家庭について学んだりしています。(教育課程指導課)</p> <p>「小学校や中学校など、若いうちから妊娠や出産、育児について学ぶ機会を増やすことが重要だと考えます。」とのご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>本市では、市立学校の児童・生徒へ向けて、命の大切さや性に関する正しい知識を伝えるため、「思春期保健教室」を実施しております。(母子保健課)</p>	提案を反映した
	高齢者と子どもの関わりを増やす取組があるとよい	<p>少子化が進む中で、将来は高齢者を支える役割を担うことになると思います。そこで、小さいうちから高齢者や子どもが互いに良い影響を与え合う取組が必要だと感じています。例えば、子どもが老人ホームを訪れて一緒にレクリエーションを行うなど、年齢を超えて幅広く関わるのが重要だと思います。</p>	<p>高齢者と子どもたちの交流についての話がありました。中学校の「未来くるワーク」などで老人ホームへ行く場合がありますが、全員というわけではありません。異なる世代同士のコミュニケーションは、お互いに気づきをもたらし、人生がより豊かで楽しくなると思います。</p> <p>地域では自治会活動などが行われていますが、参加者が少なくなっている傾向があります。それでも、世代間の交流は非常に重要です。私たちもこれを支援したいと思いますし、若い皆さんにも参加してほしいと考えています。</p>		提案を反映した

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	子育てに関して学校で扱う内容として、男性についての内容を増やした方がよい	親子の絆を深める子育て支援についての話がありましたが、私が初めて目にした内容もありました。小・中学校の授業では女性に関する内容が多く、男性については非常に少ないと感じています。男性に関する内容も授業で扱われれば、もっと多くの人を知識を得られると思います。	育児については女性に関するものが多く、男性に関する学びは少ないというお話がありました。双方のことについてしっかりと学ぶことが重要だと思います。	家族が互いに協力・協働して家庭生活を営む重要性について学びます。育児についても同様であると考えられ、一人ひとりが家族の一員として、愛情をもって接し子どもを育てていくことが大切であると考えます。(教育課程指導課)	提案を反映した
	市民が個人として、各自の知識を生かして学生の教育に協力できる機会があるとよい	子育てが終わり、時間もありませんので、何か人の役に立ちたいと思っています。データサイエンスを研究していたので、プログラミングなどを教えることもできると思いますが、教諭の資格がないため難しいと感じています。金融機関が社会人向けのリカレント教育を行ったりしていますが、組織対組織だといろいろな問題があると思うので、行政が主導し、仕事帰りなどに個人で気軽に参加できる学び合い機会を提供してくれると、少しでもさいたま市のためになれると思います。	行政だけでは手が届かない部分が多いと思います。現在、学校で「チャレンジスクール」を実施しており、地域の皆さんに協力して、講師になっていただいで、多様なプログラムを提供しています。例えば、手品や昔の遊び、将棋など、各学校ごとに異なります。参加した子どもたちや保護者から、また地域の皆さんから高い評価をいただいでおり、コロナの影響で一時中断したものの、現在も継続しています。また、お話しただいたような活動の機会について、作れるものもあると思います。ボランティア活動の場を知ってもらうための努力もしていますので、ぜひ協力をお願いしたいと思います。子ども・子育ての環境は制度だけでなく、社会全体の意識の変化も重要です。前向きな意見を聞けて嬉しく思います。		提案を反映した
	児童センターや公民館で行う、夏休みの企画でコミュニティづくりができるものがあるとよい	夏休みは暑いため、小学校低学年の子どもを外で遊ばせることが難しいです。児童センターや公民館で様々な企画をしてもらい、ありがたいです。もっと力を入れて講座やプログラムを増やしていただければと思います。コミュニティづくりにもつながると思います。学生が高齢者と接する機会は、公民館でも行われているかもしれませんが、コロナの影響で人間関係が希薄になりつつあり、自治会やPTAでもその傾向を感じています。公民館や児童センターといった、地域の基幹の施設の重要性が見直される時期かもしれません。これらの場所で企画を行い、人が集まることで関係性が築けると思います。地域のコミュニティが子育てや防災において重要であり、公助や共助の観点からも地域のつながりが大切です。公民館や児童センターを活用して、コミュニティの重要性を広めていただければ良いと思います。	児童センターや公民館の役割が非常に大きいというお話がありました。この点について、私たち教育委員会として、総合教育会議などでお話ししていきたいです。コミュニティがしっかりしていれば、どんな問題でも解決できるというくらいに重要なテーマだと思います。さいたま市は転入により人口が増え、新しい住民と、どう地域を一緒に作っていくかが重要だと思います。コロナの影響で地域活動が戻り切っていないことも感じています。特に高齢者の方々が外出をためらうケースが多いです。コミュニティの構築は、子育て、教育、防災、防犯、福祉において重要であり、基盤となります。行政だけでは対応できない課題が多くあると思います。その足りない部分について、市民やNPO、事業者のサポートで補っていただき、まちが形成されると思っています。私たちもコミュニティの再構築に取り組むことが重要だと考えています。		提案を反映した

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	外国人が出産するにあたって相談できる環境があるとよい	日本では外国人が増えており、これからも増えると思います。日本で子育てを希望する女性もいる中で、子どもを産んだ後の不安を持つ方が多いと感じます。自国では相談できる人がいるが、日本では誰に相談すれば良いのか分からないため、コミュニティーが必要です。 また、外国人向けの子育て講座やセンターを設けることがあれば、非常に頼りになると思います。	さいたま市では外国人の方々が増えており、日本で子育てを希望する方々が不安を感じていると思います。観光国際協会が相談窓口を設けていますが、子育てに関しては特別な要素もあるため、外国人が利用しやすい窓口を考える必要があります。 留学生や外国人の方に限らず、新しくさいたま市に転入した方々からは、周りに知り合いがいないため、制度やサービスの利用に踏み出せないという声も聞きました。子育て中は孤独感が増し、不安も大きくなるため、私たちがどのように手を差し伸べられるかが重要だと思います。	本市では、子育て中の親子が気軽に集まり、楽しく遊んだり、情報交換ができる場として、0～3歳未満のお子さんとその保護者の方が利用できる子育て支援拠点の充実を努めており、現在、10か所の単独型子育て支援センターと31か所ののびのびルームを設置している。 また、外国人の方に限らず、単独型子育て支援センターでは、さいたま市に転入した子育て中の方を対象に、「ウェルカムさいたま」というイベントを開催しており、引っ越して間もない方たち同士で、ご近所の情報交換や、お友達づくりの場を提供している。 引き続き、子育て中の親子の交流の場の提供や相談の実施により、子育て家庭の育児に対する不安感や負担感の軽減を図ってまいります。（子育て支援課）	提案を反映した
	気候変動を減らす取組をするとよい	取り組むべきことは、次世代にマイナスとなることを減らすことです。気候変動というツケを減らすために再生可能エネルギーを選び、生活スタイルを見直す必要があります。	気候変動の問題を減らし、平和な社会をつくっていくことが、子育てしやすい環境につながるというのは、その通りだと思います。今年の暑さは異常で、9月でも35度を超える日が続いています。気候変動の問題について、私たちがどのようにアクションを起こし、意識を変えて行動を変容させるかが重要です。これは行政だけでなく、みんなで考え、実際に行動を起こす必要があると感じています。		提案を反映した
	プラスチックをできるだけ使わないようにするとよい	次世代にマイナスとなることを減らすべきだと思います。プラスチックが海洋汚染に与える影響がとても深刻であり、できるだけ使わないようにしていくべきだと思います。	気候変動や平和な社会をつくるのが、子育てしやすい環境につながるというのは、その通りだと思います。今年の暑さは異常で、9月でも35度を超える日が続いています。気候変動の問題について、私たちがどのようにアクションを起こし、意識を変えて行動を変容させるかが重要です。これは行政だけでなく、みんなで考え、実際に行動を起こす必要があると感じています。	ペットボトルなどの使い捨て容器や買い物の際のレジ袋などを削減するため、マイボトル・マイバッグ運動を推進しています。（資源循環政策課）	提案を反映した
	個人情報の取扱いが厳しくなり、主任児童委員の活動がしづら	主任児童委員は、子育て世帯を支援することを目的の一つとしています。小学校や中学校、児童相談所と連携を図って活動していますが、最近は個人情報の関係で、情報のやり取りが難しくなっています。これは桜区だけでなく、さいたま市全体の小・中学校での状況なので、改善できないかと思っています。	学校から個人情報が得られず、サポートがしにくい状況だということだと思います。 教育委員会にもこの件を伝えたいと思っています。教育委員会は公平性を保つために市長部局とは異なる権限を持っています。子ども未来局は市長部局にありますが、連携を強化することで、子どもたちをより効果的にサポートすることができると考えています。 主任児童委員との協力や個人情報の問題も含めて、関係を深めていく必要があると考えています。問題提起をし、連携を進めていきたいと思っています。		提案を反映した

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	学校の先生だけでなく、幼稚園・保育園の先生の頑張りにも目を向けて欲しい	学校の先生の待遇改善についての話がありましたが、幼稚園や保育園の先生の重要性も忘れてはいけません。彼らは子どもたちを直接受け止め、人生の大切な時期を育てています。幼稚園や保育園の先生は、保護者の相談に乗ることも多く、幼児教育に関するスキルアップにも努めています。こうした先生たちの努力や大変さを理解してもらいたいと思います。	幼稚園・保育園の先生たちの処遇改善は非常に重要です。現在、支援を行っていますが、まだ不十分だと感じています。引き続きしっかりと取り組んでいきたいです。保育園や幼稚園の先生方は保護者の相談に乗り、親御さんもサポートしています。このように、親育ちを応援する関係が築かれています。幼稚園・保育園や放課後児童クラブを通じて、皆で子育てや子どもの成長、親の育ちを支援する環境を作ることが重要だと感じています。	保育士に対する処遇改善施策として、民間保育所に勤務する常勤職員に対し、月額193,500円の市単独の給与上乗せ補助のほか、月額72,000円の「保育士宿舎借上げ支援事業」を実施し、保育士の雇用促進や就業継続を支援しています。さらに、今年度からは、奨学金返済費用の一部(最大90万円(月額18万円×5年間))を補助する保育士奨学金返済支援事業を実施しております。(保育施設支援課)	提案を反映した
	自分の知識で助けになることがあれば、上手に使ってほしい	息子が二十歳になり、現在主任児童委員として研修等に参加していますが、もっと早く知識を得ておけばよかったと感じています。子育てを終えた世代が自分のスキルを活かし、小さな子どもたちに伝える場が必要だと思います。民生委員としても、そのような機会があれば、上手に使っていただきたいと思っています。	子育てを終えた世代の方々に関わってもらう機会を作ることは重要だと思います。最近まで子育て最前線で頑張っていた方々のノウハウや情報は貴重です。彼らの力をお借りできる取り組みが必要だと感じています。	本市では、10か所の単独型子育て支援センターにおいて、祖父母世代が孫や地域の子育て支援にかかわっていくきっかけ作りを旨とした「孫育て講座」を実施している。講座の内容については、祖父母手帳を活用し、現在の育児方法を学ぶことを目的として、各センターが企画し、実施している。引き続き、孫育て講座等の実施より、地域の子育て支援の充実を図ってまいりたい。(子育て支援課)	提案を反映した
	子どもに優しい社会にするために、まずは平和な社会であることを発信するとよい	子ども・子育てに優しい社会は、平和であることが最も大切だと思います。戦争を防ぎ、子どもたちが安心して生きられる社会をつくるのが重要です。さいたま市は2005年に平和都市宣言をしており、来年は戦後80年になります。子ども・子育てに優しい社会として、平和の重要性を市から発信していただきたいと思っています。	平和都市宣言を2005年に行い、来年で20周年になります。この機会に、平和の問題について考える機会や事業を企画していきたいと思っています。		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	夏休みの子供の居場所として、学校を開放するなどしてほしい	<p>今年の夏は猛暑で、公園には子どもがいない状況でした。遊具では遊べず、子どもたちがつながる機会が減っています。現在の子どもはゲーム機で友達とつながっていますが、対面の交流が少なくなっています。</p> <p>中島小学校区には、子どもが自由に入出入りできる公共施設がありません。民生委員として役所に嘆願書を出したことがあります。新しい施設の建設は難しいと聞いています。</p> <p>そのため、夏休みの間だけでも小学校を開放してほしいと思います。教員には手間をかけないよう、地域で協力して子どもたちの居場所を作りたいと思っています。今は登校日や夏休みのルールもないので、子どもたちが自由に遊べる機会を提供できればと考えています。</p>	<p>日本全体で人口減少が進んでおり、公共施設を増やすと今後維持管理にお金がかかり、サービスが提供できにくくなります。さいたま市では公共施設マネジメント計画を作成し、基本的には施設の数を増やさない方針です。</p> <p>そのような中で、学校の活用という考え方は、極めて個人的な意見ですが、あり得るだろうと思います。現在の教育長は生涯学習の場としての学校、地域の中での学校という在り方に関心が高い方です。そのため、私としては、学校が公共施設の中で重要な役割を果たすと思っています。夏休みの子どもたちの居場所についても一緒に考えたいです。</p> <p>さいたま市では放課後児童クラブが不足しており、政令市の中でも待機児童が多い状況です。今年から4つの学校で放課後子ども居場所事業をモデル事業として実施しています。これは一定の費用が掛かりますが、子どもたちが17時まで放課後に利用できる場所を提供するものです。保護者が働いている場合は、19時まで利用できます。また、これは夏休みにも利用できます。</p> <p>現在の放課後児童クラブは保護者が運営しているケースが多く、運営が厳しいという意見もありますが、今後の取り組みとして通常の放課後児童クラブを増やすとともに、モデル事業を拡大することで放課後の子どもたちの居場所を確保していこうと思っています。</p> <p>また、Park-PFIという、民間の力を活用する方法で、公園のリノベーションも進めています。地域の方が集まれるような施設を設置するなどの計画を進めています。気候変動に対応しつつ、子どもの居場所を作っていくことが重要だと感じています。</p>		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている
	小さい子が一人でいける居場所があちこちにあるとよい	<p>子どもたちにとっての居場所をもっと増やすことが重要だと思います。家庭が好きな子どももいますが、家庭に居たくない子どももいます。季節の良い時には公園やコンビニに行くこともありますが、居場所が不足しています。公民館でも様々な講座等がありますが、事前申込制であるため、もっと気軽に立ち寄れる場所が望ましいです。東児童センターのように、ふらっと行けて遊べる場所が増えると良いと思います。また、小さい子どもが一人で行けない場合もあるため、民間の力を借りて居場所を増やすことが必要です。</p>	<p>子どもの居場所についてですが、児童センターを増やすことは難しい状況です。学校も一つの例として、安心できる場所を地域の皆さんと行政が連携して作る事が重要です。皆さんからの知恵をいただきながら進めていきたいと思っています。</p>		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
自分が取り組んでいること、取り組めること、感想等	さいパパという団体で活動している	コミュニティについてお話しします。「さいパパ」は、小さな子どもを持つ父親が集まるコミュニティです。子育て支援課と連携し、「さいパパスクール」を実施しています。さいパパの活動は15年目になりますが、15年前と比べて、父親が子育てに関わることは珍しくなくなり、社会的なサポートも増えました。子育てのスキルはネットで得られますが、父親同士のコミュニティや関係性が重要だと感じています。母親同士は友達になりやすいですが、父親同士がつながるのは難しいため、さいパパがその役割を担っていると思います。	さいパパの活動を積極的に行っていただき、ありがとうございます。		
	父親同士のコミュニティ作りが重要だと思う	地元での役割として、児童センターが大きな力を持っていると思います。小さな子どもを持つ父親も、小学校低学年まで児童センターに行くことが多いので、父親同士をつなげる企画があれば良いと思います。 子育て支援センターでは「パパサウンデー」があり、さいパパが活動しています。父親同士がつながることで、子育てを楽しく行うようになり、母親の負担も減ると考えています。父親のコミュニティづくりが重要だと思います。			
	香害問題を心配している	さまざまな場面で使用される合成化学物質の中には、健康被害を引き起こすものがあります。特に香害と呼ばれる問題は、香りだけでなく、洗剤や柔軟剤に含まれる合成香料や抗菌消臭成分による健康被害が問題であり、子どもたちにも被害が広がっています。 特に胎児に影響を与える物質もあるため、大変心配しています。このような過剰な化学物質を見直す必要があると考えています。	気候変動や平和な社会をつくるのが、子育てしやすい環境につながるというのは、その通りだと思います。今年の暑さは異常で、9月でも35度を超える日が続いています。気候変動の問題について、私たちがどのようにアクションを起こし、意識を変えて行動を変容させるかが重要です。これは行政だけでなく、みんなで考え、実際に行動を起こす必要があると感じています。		

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
テーマ外の意見	市の防災・災害対策を強化するとよい	さいたま市の防災や災害対策を強化すべきだと考えています。最近の南海トラフ巨大地震や能登での大きな災害が理由です。私自身はさいたま市の対策について100%把握しているわけではありませんが、石川県で被災した友人の話だと、手つかずの状態の家がまだ残っていることを聞きました。大きな災害が起こった際、国からの支援には限りがあるため、さいたま市内でお互いに助け合うことが重要だと思います。近い将来起こり得る災害に備えて、対策を見直す必要があると感じています。	私たちが能登半島地震の支援のため、職員が現地に行っています。災害発生の翌日から水道の支援などを行いました。現在でも志賀町に職員を派遣しています。地域の方々のために全力を尽くしていますが、同時に学んだことをさいたま市に活かすことも重要です。各地の地震発生で起こった問題を検証し、さいたま市で災害が発生した際にどう対処できるかを考えています。今後も災害に備えて、対策を練っていききたいと思います。		提案を反映した